

学校名 川越市立中央小学校
所在地 川越市中原町1丁目25番地
電話 049-222-0310

1 本校の概要

本校は、地域の人々に温かく見守られ、受け継がれてきた伝統を感じることができる創立 148 周年、全校児童 533 名の中規模校である。本川越駅、川越市駅、川越駅が隣接しており、3 駅が利用できる交通利便性がありながら、近くには小江戸川越と称される「蔵造りの町並み」や「時の鐘」といった歴史的な街並みが広がる川越市の中心部に位置している。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

読書に親しむ態度や読書習慣に係る取組

(今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、制限がある中、工夫して読書活動の推進を図った。)

(2) 実践の概要

ア 全校読書の実施

毎週水曜日の業前 15 分間を全校読書タイムの時間として設定し、自分で選んだ本を静かに読む時間とした。

イ 学校図書館の分散貸出

感染対策を行い、学年別での分散貸出を行った。学校図書館を各学年が優先して使用できるように、時間割を作成した。

ウ 読み聞かせボランティアによる読み聞かせ

本校の保護者による読み聞かせボランティア「うさぎのしっぽ」の方々による読み聞かせを実施している。(今年度は感染防止対策を行いながら実施)

エ 読書月間

読書週間に合わせ、11月の1ヶ月間次のような取組を行った。

- ・ 読書の木 読書の実

各学年の掲示板に「読書の木」を作成し、本の題名、作者、一言感想を記入した「読書の実」を貼り重ね、読書に親しむ習慣の一層の充実を図った。

- ・ 読書集会

図書委員の児童が児童朝会で、学校図書館の

利用やお薦め本、クイズ、読書の木についての説明を行う読書集会を行った。

- ・ 読書ビンゴ

図書委員の児童を中心に読書ビンゴを行った。本には番号がついていることや、番号によって内容が決まっていること、しまう棚が割り振られていることなどを理解させることができた。また、読書ビンゴを行うことで、なじみのない本にも触れる機会が多くなり、読書の幅を広げることができた。

オ 掲示物の工夫

全クラスの貸出冊数を明確にし、一覧表にして廊下に掲示した。数字に表されることで意欲が高まった。

学校司書による新着図書の紹介、時節に合った掲示物が、児童や教師の足を止め、読書の意欲につながったと考えられる。



3 成果と今後の課題

(1) 成果

コロナ禍でも環境を整え工夫をし、例年並みに読書の取組を行い、利用しやすい図書館にすることができた。校庭の使用制限があり、休み時間の使い方にも変化ができたおかげで、学校図書館の貸出冊数が前年度より伸びた。

(2) 課題

学年が上がるにつれて本を読まなくなる傾向が見られる。学年の実態にあった読書意欲を喚起する取組を考え、推進することが課題である。

(3) おわりに

新型コロナウイルス感染症予防の観点から学校図書館の活動にも制限されることもあるが、このような時だからこそ、本のもつ力を信じて良書を児童に薦めたい。そして自分から本を手取る児童を増やしていきたい。